

# 駒場松桜会会報

第59号  
1996年9月1日発行  
発行会区 駒場松桜会  
地区 東京都目黒区  
〒153 大橋2-18-1  
都立駒場高校仰光寮  
電話03-3466-7579  
振替番号  
00190-8-28486

## 新校長・新理事長より

### ご挨拶



校長 佐野 森彦

私は、本年四月一日、吉川重雄前校長の後任として都立代々木高校から本校に着任いたしました。九十余年の伝統を誇る駒場高のさらなる発展のために、精一杯努力する所存でございます。会員の皆様どうぞよろしくお願いたします。

この三月、六年間に亘る校舎の全面改築工事がすべて完了し、施設・設備が一新しました。会員の皆様、機会がございましたら、ぜひ、生まれ変わった母校をご覧ください。二十世紀を見据えた第十五期

中央教育審議会の「第一次答申」が発表されました。新しい教育理念として「生きる力」(ゆとり)を掲げ、学校のスリム化を提起し、その上で学校の完全週五日制を挙げ、教育の転換点をかなる的確に示しております。

学校のスリム化は仕事を減らすこと自体目的ではなく、学校本来の役割をより効率的に達成できるようにするための手段です。学校がなすべき仕事はきちんと行い、教えるべきことはしっかりと教えることには変わりはありません。万が一にも生徒に学力不足が生じたり、その将来を危うくするようなことがあってはなりません。これはダイエツトが健康のためであって、瘦身のためではないのと同じことです。学校の仕事を減らすことを目的としたのは、ダイエツトのし過ぎで栄養失調に陥るようなことが起こってしまいます。これでは本末転倒というほかありません。いま、都立高校は生徒急減期を

迎え、質的転換を求められています。このころ都立高校は、特色化・個性化をむけて懸命の努力をしております。本校も例外ではなく駒場高の良き伝統にさらに磨きをかけ、新しい息吹をあたる取り組みをしなければならぬと肝に銘じております。

会員の皆様、本校発展のためにあるな面でご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後に会員の皆様へ申し上げます。ご優勝とご多幸をお祈りして着任の挨拶いたします。



理事長 小杉 明子(33中)

この度因らずも、四十年の長きに亘り松桜会のために盡し頂きました上田前理事長(26西)のお後を引継ぐ事になり、この重責に身の引き締まる思いでございます。現在の会員数は二万数千人を擁するに至り、駒場卒の占める割合は四分の二と新しい年代への広がり益々顕著になって参りました。校

舎の近代化と共に、私共もリフレッシュを旨とし役員も新たな顔ぶれが加わり、事務機能もOA化して、皆様方の多彩なニーズにお応えできますよう、21世紀へと踏み出す100周年を目指して力強く前進したいと存じます。母校の益々のご発展に、できる限りこの協力をさせていただきます。松桜会の活動が更に充実していくことを願いつつ、新たな一歩を積み重ねて参ります。ふりかえってみますと、昭和八年には、皇太后さまが皇太子妃に御内定の折、皇后さまは元は久松宮邸内のお花御殿(仰光寮)が女子教育振興の為、母に御下賜となり、母校の名前はより高まりました。その後恩師が

心血を注がれた御教育は、第三精神として、麻布が丘から駒場の丘へと引継がれ、文部大臣、芸術家、芸能人、教育者、歌人、オリエンティック選手等あらゆる分野で花開き活躍されるに至りました。私は第三の卒業生として蒙りました、恩師、先輩、後輩方からの数々の恩恵に報いる為に、甚だ非力ではございますが、有能な役員方のご協力を得て、輝かしい伝統のある松桜会が、更に新しい時代に即した親しみのある和の松桜会として、益々発展する事を希い全力を盡して参りたいと存じます。近づく創立百周年に向かい、会員皆様の絶大な御支援と温かい御協力を心からお願ひ申し上げます。

## 学園参加のお知らせ

- ◎日時 9月21日(土)、22日(日) 10時～3時
- ◎場所 本館2F 201教室
- ◎展示 コピライタとイラストレーターの二人展
- プロファイル
- 石丸淳一氏(駒15)
- 丸井やキリンなどのCFやポスター等を手がけているフリーのコピライター。
- 矢吹申彦氏(駒15)
- 69、76年ミレージックマガジンのADと表紙絵を描く。個展12回 雑誌表紙、広告のイラストレーションに携わる。文章、俳句にも活躍し、作品集「矢吹申彦風景図鑑」他数冊の著書あり。

# 平成八年度 総会・講演会

五月十九日(日) 母校会議室で午後一時から総会が開催された。新理事長就任の小杉明子氏の挨拶、佐野藤彦新校長のご挨拶に続き、生徒会への助成金贈呈が行われ、駒場の校歌を全員で斉唱し閉会となった。

小杉理事長の挨拶の中に、「よく学び、よく遊び、厳しい規律の中にも自由があり、大変楽しい学生生活を通じた。」と、運動は当時のオリビック種目は一通りやられた。

○ダンスは、ヨーロッパの宮廷舞踏で、一年カドリール、二年カレドニアン、三年ボルカセリースト、四年マズルカ、五年マアウス、コチロン。

○全国合唱コンクール、毎日音楽コンクールで、一位、一位に入る。等々戦前の第三高女の歴史の一角が語られた。

尚、今年も、府立第三高等学校の校旗が、学校に保存されているのが見つかり、会場に飾られた。

## アトランタ最初の日の丸！ 田辺陽子氏(駒36) 2つ目の銀



表彰後、日本の応援団に笑顔で銀メダルを見せる等々提供日誌スポーツ(カメラ 浦部歩氏)

田辺陽子さん(駒36)は、柔道女子72キログ級で、バウルセロナに続きアトランタでも銀メダルを獲得しました。93年の総会に

毎日通院していらつしやるのと、でも頑張りなすといってお元氣な声に田辺さんの力を信じています。日本女子の連続メダルは、個人種目で水泳の前畑秀子以来60年ぶりの快挙となりました。世界選手権を合わせて4個目の銀メダル(駒4個)、一段とすばらしく輝いたことですね。

おめでとうございます、田辺さん。五重由子(駒36)氏  
チネパバロリサヤタル  
97年1月8日(土)19時開演  
北とびあ、つつしホール(JR主駅北口2分)  
前売2500円当日3000円  
問合せ電話03333019102

## 松桜会コンサート 眞理ヨシコ

～めぐり逢って 歌・人・そして～

第一部 心に残る日本の歌  
ある愛の詩  
ピアノ：北野 実  
1996年12月14日(土)  
サントリー小ホール  
1:30開場/2:00開演  
¥4,000(金席自由席)  
主催：財団法人 駒場松桜会

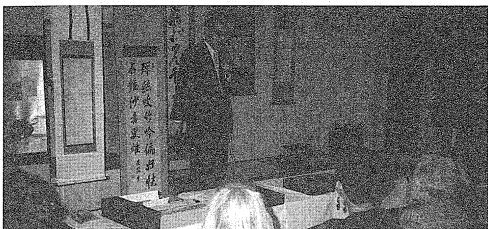


プロフィール  
眞理ヨシコ  
都立駒場高校芸術科卒業。  
東京芸術大学声楽科卒業。  
妻大在学中NHKのオーディション合格。  
NHK「うたのえほん」おおかさんといっしょレギュラー出演等。  
日本レコード大賞童謡賞受賞。  
モービル児童文化賞、日本童謡賞受賞。  
現在唱歌、童謡、新しいこどもの歌を中心に抒情歌、シャンソン、タンゴ、カンフォオーネそしてミュージカルなどの他の分野にわたってステージ・レコーディング・テレビ・ラジオで活躍。

北野 実  
作曲家、ピアニスト。  
1951年生まれ。  
6歳よりクラシックピアノを始める。  
東京工業大学理学部修士課程卒(応用物理学)。  
多くの著名音楽家との共演やレコーディング。  
アコースティックピアノを中心とした幅広いジャンルでの演奏作編曲に活躍。  
お申し込み  
月曜日午前10時～午後4時  
電話 03-3466-7579

## 講師からの言葉

5月19日、私は松桜会の総会後に講演をさせていただきました。私は、表具師をしています。私の本名は表具と書いています。職業と名が、音の響きです。つまり祖父も曾祖父も表具師で代々続いているわけですが、本家の初代は、加賀の前田齋宗という殿様に仕えていた表具師だったそうです。それはさておき、講演は「表具の話」でした。多勢の前で話をするといいのは高校時代が苦手なほうでしたので、依頼を受けたときは少々困ったのですが、ここは母校のためと引き受けました。話すだけでは退屈してしまうだろうし、それによくわかってもらえないのではないかと、出来るだけ多くの掛軸を持参し会場に掛けました。百聞は一見にしかず、これはなかなか好評だったように思います。百聞は一見にしかず、これはなかなか好評だったように思います。



「表具」という言葉は、唐語に由来していますが、「表具」とか「掛物」「屏風」とか、一般の人々の生活からいって、遠ざかっている感じがします。一言で残念な気がいたします。一言で残念な気がいたします。一言で残念な気がいたします。一言で残念な気がいたします。一言で残念な気がいたします。

## 出席者の声

表具氏の講演は、茶道文化と一体となつて普及した輪軸のお話から始まりました。ご持参の掛軸を用いて「真・行・草」の様式の違いや変りや表具の例を示され、複雑で多様な表具の形式を大分分かり易く説明下さいました。裂地や牙軸の種類が多さ、細工の精巧さも見事な美術品の周囲を飾り、中の作品を生かし、更にそれ自体が芸術品とも言える掛軸。表具師さんの美に対する眼と技の表出でした。「季節」と軸を掛替えて楽しんでほしい。」と、言われた氏の言葉が印象的でした。好みの幅を

掛けて生活を楽しむ、という心のゆとりは失いたくないものです。本校書道科 齋藤いづみ

後を継いで表具師という仕事に専念していらつしやるというごこと、風のうわさで聞いていうこと。講演会は、写経の為に線を引き写経師という仕事で、豊臣時代茶道の発達とともに、表具師となつていく歴史から始まりました。表具の形式や、用いる布のお話は、はじめて伺うことばかりでした。

伝統芸術が、次第にすたれていく中、新しい試みをしてが伝統も受け継ぎ、うまく調和させているお仕事を、感心させられました。司会の大谷さんのウィットにたんだやうな、和室ならではの丁寧な先陣方から、色々な質問で大変にぎやかな会になりました。単純化された様式のお話というのでしょうか、小さな空間に無限の広がりを感じさせる掛軸に、魅了された二日でした。

眞理ヨシコさんとは、お教室でセーラー服をピチッと着て自席にお行儀よくいつも笑顔をみせられていらつしやる姿が印象的でした。一見近寄り難い感じがしますが、常に「おくりまわす」の気配を配つていらつしやる方です。改めてご紹介するまでもないと思います。

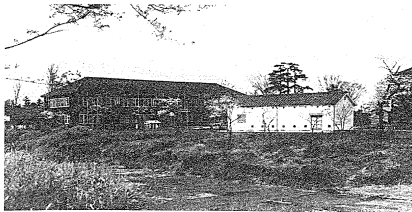
眞理ヨシコさんは、高校卒業後、東京芸大の音楽科に進まれ、在学中からNHKのうたのえほん(1年間)に出演され、その後15年間「おおかさんといっしょ」レギュラー出演。その間昭和38年におもちゃのチャチャチャで日本レコード大賞を受賞、デビュー以来約30年間、子どもの歌を中心に全国でコンサートをしてお

新妻紀子(駒9)

# 駒場に移転して五十年 校舎の歴史をふりかえる

麻布にあった母校は1945年5月、仰光寮、体育館を除く全校舎が、戦禍に遭い焼失。駒場の丘に移転したが、翌1946年9月、広大な敷地を持ちながら、当初は兵舎を教室に使用し、何度な改築を経て、昨年、全面改築竣工を迎えたところ。この間、木造校舎、第一次コンクリート校舎などで学んだ生徒、教鞭をとられた先生方に当時の思い出を寄せていただきまし。配置図は時期多少異なるところもありますが、校舎の変遷、通称、各階の開発などお判りいただけるかと思いますが、校舎の卒業生の方々は御確認下さい。

仰光寮は創立五十周年記念に、松桜会が麻布より移築しました。仰光寮の周囲には、かつて正面昇降口で生徒を見守った初代校長小林先生の胸像が配され、周囲の卒業記念のあれこれと共に、温故知新一の一角を整えられています。旧正門の門柱などと共に駒場の歴史をたどる遊歩道へ、是非お出かけ下さい。



木造2階建校舎(兵舎)

## 麻布から兵舎へ

戦争が烈しくなり始めた昭和十九年に六本木の校舎へ入学した私達は、校舎の焼失、敗戦、転々とした分散授業、駒場への移転と、今の平和な時代に考えられないような変遷を経験した。六本木と駒場の校舎への思いは、戦争中と戦後という時代のものである。

校舎焼失後、焼け残った仰光寮、体育館、東山で授業再開。その後養正館、東洋英和、南山、箕小小学校での分散授業で肩身のせまい、みじめな思いを味わった。廃校の噂まである中で、駒場への移転がすんなり決ったわけではない。出である。今思えばひどい校舎だった。せまくて暗い旧兵舎は、学び舎と呼ぶには余りにも劣悪

ラズ、という特徴ある編成でした。

美術科の作品が展示された牧野記念館、部活で使われた仰光寮等出館の建物も忘れられません。授業中の工事音や、職員室が離れの棟だった放逐室が図書室に同居、など工事による不便もありました。青春の活気に満ちた高校生活でありました。

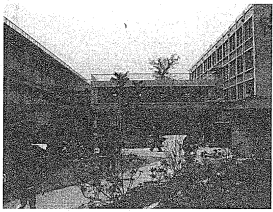
待望の新校舎への入居は2年生の時です。設備の良いコンクリート3階建の校舎へ移った時の感激と喜びは言葉に尽せません。工事はその後1年余り続きました。

## 兵舎から コンクリート校舎へ

私達が入学した昭和35年当時の校舎は、戦前兵舎として使われていた古い木造二階建てでした。校舎改築工事は入学前の昭和34年から既に始まっており、3年生の夏(昭和34年)まで続きました。従って私達の駒場での思い出は、工事現場のつち音と重なります。

入学当初の教室は、老朽化の上で、南にプレハブが隣接して建てられていて、教室がとても暗かったことが印象的です。雨の日には電灯をつけても後の生徒は黒板が見えない、とPTAで問題にもなりました。窓がガタピン開けにできなかったこと、入るのも恐ろしい旧式トイレ、又腐った廊下の床を女生徒が踏みぬくこと、など今は信じられないようなこともありました。

校庭は現在の芸術高校の敷地も含んでとても広く、自然環境に恵まれていました。一棟だけ遠く離れた旧兵舎は音楽科、私達普通科も音楽科の授業はそこで受けました。普通科は体育科・芸術科(音楽・美術)が各1クラス計8ク



## 旧校舎から 新校舎への過度

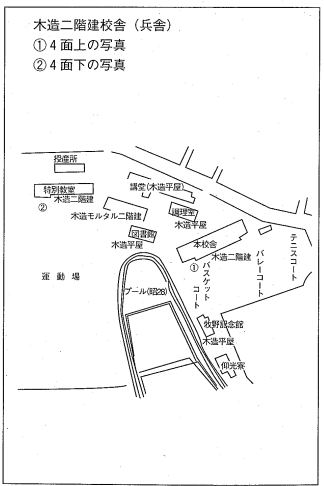
駒四十五・四十六・四十七の皆さんお元気で。今年七月のすべて、外構も含め全面改築工事が無事完了しました。改築工事の満ちた皆さんは、騒音に悩まされ、大いに不自由を感じられたに

な建物だったが、自分達の校舎が持つ喜びが何にも増して大きかった。戦争中分散授業の日々を思えば校舎の汚なさなど気にもならなかった。又、焼野原の東京の中で、荒れ放題とはいえない敷地が嬉しかった。食糧事情も悪く、着るものも貧乏だった。ぜまかい校舎と広い谷間でのがびと学び遊んだ。若い山脈の時代でもあり、一方限られた字数で書き盡くせない事件もあった。価値観が一八〇度ひっくり返った。敗戦を経て駒場で過した日々が、その後の私の生き方を決めたと言っている。

和(田正江 駒2)

「井の頭線の東大前が渋谷からバスで松見坂上、バスだと学校のすぐ脇で止ります」という案内で、私が駒場高等学校を訪れたのは昭和34年(一九五九)3月でした。校舎内の印象は、ひどく古い。木造建てと特徴のある異臭い防錆剤の油を塗った板張りの廊下、階段などに年季を感じました。階段の手摺りは茶褐色の光沢で俗にいう色でツルツルした。この色に驚いておぼろげに思い出した。戦後、都立高校はまだ太平洋戦争の影響を残しており、木造が多々あったように、駒場高校の前身である旧第三高等女学校が都心の麻布で戦災のため焼けた。現在の目黒区駒場の旧陸軍の跡地に「駒場」の名を冠した校舎に変わったことを知りました。

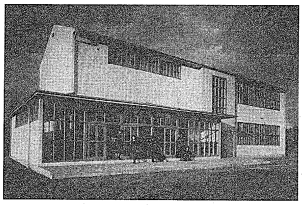
その頃の駒場高校は現在とはほぼ同じ敷地と隣接の芸術高校の敷地とを一緒にした広大な場所に色々



木造二階建校舎(兵舎)  
①4面上の写真  
②4下面の写真

改築時の様々な思い出の中で、一際鮮やかなのは、駒四十五の卒業式前日と当日の夕方のことです。東京都からはまだ正式な使用許可は下りていませんでしたが、何とか新校舎に一度入らせてあげたいとの担任団との願いが叶い、素足での入館が特別許可され、ささやかな見学ツアーの後、第一体育館で予行が行われることになりました。

予行終了後、旧校舎に戻る途中、「新校舎への感嘆の雲に紛れて、」の立派なは何なんだ。見なけりや良かったと誰かの言葉が聞えど、彼らの複雑な思いが痛いほど分かり、ふと、「彼らには、新校舎は見えないまま、そして、旧校舎から異立つ最後の卒業生として送り出すべきだ」と思いました。そして翌日、胸を横切りました。



新館

な建物があり、仰光寮も今の所に勿論建てておりました。そんな中で、ブルの北側にあった図書館と目黒一中寄りであった体育館初代が比較的新しくもたてた。この昭和34年はすでに鉄筋コンクリート建ての新校舎への改築計画が進んでおり、秋から工事が始まり、次の昭和35年、駒15回生の新一年の担任の一人となつた私のHRは3号館か4号館と呼ばれた西側に離れた2階建ての校舎で、一段とスゴイ校舎でした。1Hは1階のホール風な部屋、2Hはその隣り、その奥は物理と化学の実験室、2階は3、6Hの部屋だった。管です。このとき同時に美術科、音楽科も移動し、音楽科は陸上競技場の北側の5号館に移り、これが現在の芸術高校の敷地の下地につながる伏線となつたといえます。

広い土地とたどる古くとも多くの建物があり、多少の不便さがあったにもかかわらず使えたことが、校舎改築をスムーズに進められた最大要因だったと思います。

もしばしばあると聞くのに、そうした行為とは無縁に、窓一杯に思いを綴って静かに去って行った。彼らの高い品位が改めて思われます。連絡した駒場の伝統が、彼らの内奥深く染み込んでいたに違いない。

窓の外を見ても、夕間の中の一組のカップルが中庭の緑の上に座り、櫻の古木を見ながら何やら話っていました。あの櫻も残念ながら移植撤去。旧校舎と運命を共にせざるを得ません。今、新校舎の大構脚昇降口は、輸切りの椅子とた姿を留めています。

それについても巨大な構築物が、人の力で日毎に立ち上がり、緑を回復しながら一つの構想に向けて収斂結晶してゆく姿をぶささ目に当たります。昨日は確実に異なる今日の姿。一人一人は小さな存在が、協和し創造する力と力と技の偉大さに改めて驚かされたのです。

改築準備や改築業務に係わられた方々、並びに改築中の不自由を改めて感謝した卒業生の方々に、尚、改築工事のため未購入だった駒四十三・四十六の卒業記念本も今は緑しています。折あられごとひお祈り下さい。

## 各口(三鷹高校)

同期会のお知らせ  
駒4 10月13日(日)12:15  
於一ツ橋 如水会館

【進路】

最近5か年の大学合格状況

Table with columns for university names and counts for years H4.3, 5.3, 6.3, 7.3, 8.3. Lists various universities like 北海道大学, 東北大学, etc.

Table with columns for university names and counts for years H4.3, 5.3, 6.3, 7.3, 8.3. Lists various universities like 青山学院大学, 慶応義塾大学, etc.

Table with columns for university names and counts for years H.4.3, 5.3, 6.3, 7.3, 8.3. Lists various universities like 青山学院女子短大, etc.

収支報告

Income Statement Table: 収入の部. Columns: '95年度予算, '95年度決算, 増・減, '96年度予算. Rows: 基本財産運用収入, 基本財産利息収入, etc.

Expense Statement Table: 支出の部. Columns: '95年度予算, '95年度決算, 増・減, '96年度予算. Rows: 事業費, 報集費, 印刷製本費, etc.

諸提提書類と帳簿照合の結果、収支とも正確に執行されていることを証明します。

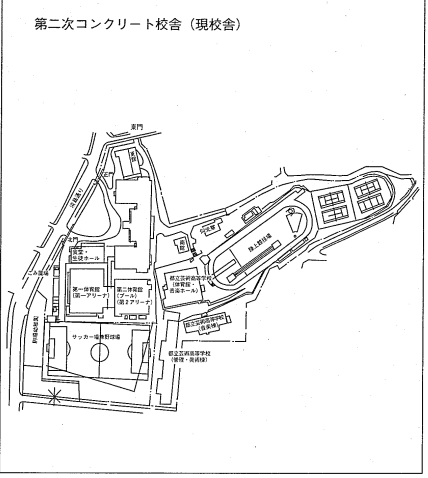
1996年6月17日 監事 土田敏裕 x 宮崎玲子 x

'96年度事業計画

- 1. 松桜会総会 1996年5月19日(日)午後1時~母校会 5月20日松桜会総会
2. 講演会 表具久生氏(駒20)「表具について」
3. 母校学園祭に参加
4. 松桜会コンサート
5. 松桜会会報発行
6. コナロン

'95年度事業報告

- 5月20日松桜会総会
母校懇話会教室
母校視察教室
6月23日~24日
母校学園祭に参加
7月14日松桜会コンサート
11月28日 松桜会創立記念式典
95年9月及び96年3月



駒場松桜会 関西支部だより
一昨年まで、二〇〇余人もを会員を擁し、四季折々に、総会・懇親会・コナロン会・かるた会等の楽しい集いを開催してまいりました。



嬉しく読ませて頂きました。有難うございました。
関西在住の方々をもつて結成され、母井会長(二四四中)のもとに先聖の御志を継ぎ、私達は、震災遭いの逆巻を乗り越えて、本年七十五周年を記念する有意義な会を開催しようとして、未だ消息不明の方や住居を移された方等の確認をし、新入会員の確保に再出発に懸命の努力をされている最中です。

卒業記念関係一覧表

Table listing graduation commemorative items: 卒業回等, 品名, 改築後の位置. Includes items like 本料第42回 灯笼, 高等科第23回 灯笼, etc.

役員一覧

- 理事長** 小杉明子(33中) 重政文三郎(教頭)
- 校内理事** 佐野森彦(校長) 山本恭子(現教員、駒24)
- 常務理事** 中江千恵(駒4) 中島俱子(駒6)
- 理事** 川井はるみ(駒9) 石澤一子(駒15)
- 監事** 吉田幸(37中) 吉田富美枝(43西)
- 評議員** 石川清子(駒3) 柴谷賢治(駒5)
- 高橋陽子(駒7) 大谷久行(駒20)
- 土田敏裕(現教員) 宮崎玲子(駒6)
- 鹿野京子(32南) 森安子(34東)
- 藤原明子(34中) 須賀富代(39中)
- 久保田雅子(41北) 菊野節子(43西)
- 小川碧(駒3) 篠田登美子(駒4)
- 中林京子(駒5) 祝光一郎(駒5)
- 森崎恭子(駒5) 藤岡達也(駒5)
- 阿部長太郎(駒6) 羽高知之(駒6)
- 糸太郎(駒6) 横河利恵子(駒8)
- 新妻紀子(駒9) 三上真喜子(駒10)
- 辻井典子(駒14) 山内成将(駒15)
- 米田順子(駒18) 平山勝津子(駒18)
- 南部知代(駒28) 小石恵子(駒29)
- 平野敦子(駒30)

平成八年度教職員異動

退職

吉川重雄校長  
中央就学相談所へ  
板橋野光頭先生  
植崎孝事務室長

転出

植崎孝事務室長  
都立大学へ  
保体 飯岡隆隆先生  
指導主事(補研)へ  
保体 朝倉知子先生  
武蔵村山東高校へ  
家庭 一ノ瀬三子先生  
豊多摩高校へ  
豊多摩高校へ

転入

英語 佐藤潔先生  
三鷹高校へ  
佐野森彦校長  
井上正事務室長  
都庁財務局管財部より  
世界史 植井明先生

城東高校より  
保体 加部正敏先生  
明正高校より  
保体 坂本裕美先生  
第三商業高校より  
家庭 岡部照美先生  
八潮高校より  
英語 森博子先生  
日森高校より

世界史(嘱託)塚田勲先生  
東村山高校より  
英語(嘱託)荒田政和先生  
小金井北高校より

☆講演会

9月26日(木)4時(於体育館)  
山田洋次氏(映画監督)

☆学校説明会

「21世紀の親子について」  
11月2日(土)2時

☆保体科実技発表会

10月5日(土)2時  
10月2日(土)2時  
10月19日(土)1時

★事務局より★

**☆会員名簿刊行延期のお知らせ**  
来年度は名簿刊行の年になります。郵便番号が7ケタに改定されますので、1年延期し、'98年度(平成10年度)発行の予定です。御了承よろしくお願ひ申し上げます。

**☆駒場幼稚園に生きたプレゼント!**  
7月中旬、茨城県在住の楢山和之(駒14-1)氏より、駒場幼稚園にと、カブト虫100数匹が送られました。丁度夏休みに入る前の園児達は大喜びで持ち帰りました。御好意に厚く御礼を申し上げます。

駒六会記念同期会開催

緑の新芽が美しい四月二十七日第七回駒六同期会が還暦を記念して、華やかに開催されました。今回は節目の年というところでいつもと趣を交え、横浜山下公園前の由緒ある「ホテル ニューグランド」を会場に、特筆することは同期会ならではの豪華なメンバーによるサロンコンサートが実現したことで、幹事の橋さんのお骨折りで、八ホーメ(都立芸術高校の前身)の八名の方が快く演奏を引受けて下さったことが、本当にうれしいことでした。

夕方四時すぎ、次々と懐かしい顔が集まりました。波部・小山・山中・春成の先生方、そして生徒

創立100周年にむかつて  
―記念事業スタート―  
来たる2002年、駒場高校は学校創立100周年という記念すべき年を迎えます。その100周年記念事業をどのように企画し実行に移していくか、六年後を目指して新しい力を取り入れたプロジェクトチームを発足させ、活動を開始致します。

記念事業としては、記念誌、記念品の寄贈、同窓会の設立、祝賀パーティ、イベント等が考えられます。

「100周年事業を成功させよう」という同窓生の皆様の意を盛り上げていただきますと思います。

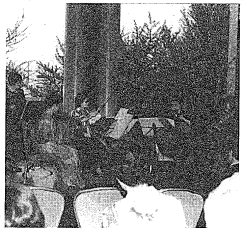
そこで、会報や松坂の事業(活動)総会・音楽会などの場を利用して、インターネットのホームページを作成するに決まっています。必要があると考え、積極的に行っていく必要があると考えています。

そして、プロジェクトチームを中

心として、既存名簿データベースをさらに発展させ、各支部とのコミュニケーションを強化すること、地域色を取り入れたり、世界地にいる同窓生の声を集めていきたいと考えています。また、音楽界や文学界、スポーツ界など、各界で活躍中の方からの意見を頂きたいと考えています。

皆様のご協力をあしくお願ひいたします。

思考と行動の自主性の育成  
学校法人  
**駒場幼稚園**  
―都立駒場高等学校同窓会より昭和30年設立―  
年長組(5才児)  
年中組(4才児)  
年少組(3才児)  
願書配付10月15日～  
井の頭駒場東大前下車5分バス松見駅上下車2分  
目黒区大橋2-18-71 ☎3466-2959



は今までの最高の二十七名、卒業以来初めての方もあり、皆様本当に嬉しいような感じが印象的でした。

ピアノ、ヴァイオリン、独唱、アンサンブルと、急に編成したとは思えない息の合った素晴らしい一時間の演奏に、感激して涙ぐんでいる方も見受けられました。最後に皆で浜辺の歌を歌って第一部を終了。全員で記念撮影をして第二部は懇親会、皆さん十代にタイムスリップをしたように若々しく、会場には笑い声が溢れていました。

次の日曜日は横浜散策ということで、有志三十名で外人墓地、港の見える丘公園などを歩き、午後二時すぎ、次回の再会を約束し、楽しかった思い出を胸に、帰路につきました。(品野直子)